

ちんくこばかま

小泉 八雲

牧 滋譯

日本のお部屋の床には蘭草を編んで作った美しい厚い疊かさねといふ敷物が敷いてあります。疊かさねは年に大層びつたりと合つてゐますので、その間には小刀の刃を入れる事がやつと出来る位です。疊は年に一回取り換へられ大層清潔きんげいにしてあります。日本人は家の中では決して履物をはきません。又イギリス人が使ふやうな椅子等を使ひません。日本人は疊の上に坐りもし、眠りもし、食事もし、時には書き物も致します。ですから疊は非常に清潔におかねばなりません。それで日本の子供は口がきける様になるにすぐ、疊を傷けたり汚したりしない様に教へられます。

さて、日本の子どもは本當に大變善い子どもです。日本に就いて面白い本を書いてゐる外國人は誰でも皆日本の子どもがイギリスの子どもよりもつとく従順で、すーっとおおなしい子供ださいふ事を言つてゐます。日本の子ども達は、物を傷けたりよごしたり致しません。そして玩具をこわしたりも致しません。小さい女の子でも自分のお人形をこわしません。いえ、いえ、大變大事にして、大人になつてお嫁入りしてからも持つてゐます。お母さまになつて娘を持ちますと、そのお人形を自分の

娘に譲ります。又貰つた子ぎもお母さまがなさつたと同じやうに、そのお人形を大切にし、大人になるまでそれを持つてゐて、又それを自分の子ぎも等に與へます。子ぎも達はお祖母さまがなさつたと同様にそのお人形を仲よく遊びます。皆様はこの短いお話を書いてゐる私は、日本で、百年以上も經つてゐますのに、まるで新しい時の様に美しいお人形を見た事があります。日本の子ぎもがみんなにおきなしいかと言ふことはこれでもお判りでせう。又あなた方は日本のお部屋の疊たたみがいつも清潔きれいになつてゐるわけもお判りになるでせう。悪戯遊びのために引つ搔かれたり傷がついたりしないで……日本の子ぎもは皆そんなに善い子ばかりでせうか。

さうですね——さうではありません。少しは、ほんの少しは、いたづらゝ兒がごさいます。それはそんな子ぎものお家の疊はさうなるでせうか。

あんまりひびくはなりません。何故つて、疊を大事にする疊の精が居りますから。この疊の精は疊を汚したり傷けたりする子ぎもをいぢめたり怖がらせたりするのです。ほんまにそんないたづら兒達をいぢめたりおぎしたりした事があります。私はそんな精が今でもやはり日本に居るのかよく存じません。何故なら汽車や電信柱が出来て澤山の精をびつくりさせてしまひましたもの。けれどこれからその疊の精のお話を致しませう。

*

*

*

*

昔、かはい、お嬢さまがございました。大變美しいお嬢さまでしたが、又大變お怠け者さんでございました。お嬢さまのお父さまはお金持ちで、お家うちには随分大勢の召使ひが居りました。そして召使ひ共はお嬢さまが大好きで、お嬢さまの爲に何でもして差上げるのでございました。お嬢さまがお獨りでお出来にならねばならぬ事までして差上げました。それできつこお嬢さまがそんなにお怠けさんになられたのでせう。お嬢さまは大人におなりになりました。でもまだやつぱりお怠けさんでございました。けれどお女中達がいつでもお着物をお着せしたり、お脱がせしたり、お髪を梳いたり致しましたので大層御立派に見えまして、誰もお嬢さまのお悪いところに氣が付きませんでした。

さう、お嬢さまは勇しいお侍さまのころへお嫁にいらつしやいました。それでお侍さまも御一緒にお里を離れてお住ひになる事になりました。

今度のお家には召使ひは少し、か居りませんでした。お嬢さまはお里で使つていらしたやうに大勢の召使ひが居ないところがたまりませんでした。いつもお傍の人がして差上げてをりましたこともお獨りでなさらなくてはならなくなりましたもの……。お着物をお召しになるのも、ご自分のお着物のお手入をするのも、旦那さまのお氣に召すやうにさつぱり美しい容なりをしていらつしやるのも、お嬢さまには大變難儀でございました。けれど旦那さまはお侍さまでございまして度々お家來達を連れて遠くへお出かけにならねばなりませんので、たまには好き放題にお怠けをする事がお出来になりま

した。旦那さまのお父さまやお母さまは大變お年寄りでおやさしくていらつしやいました。決してお嬢さまをお叱りになりませんでした。

さて、或晩、旦那さまがご家來さお出掛けになつてお留守の時に、お嬢さまはご自分のお部屋で奇妙な小さい物音に目をお覺ましになりました。大きな行燈のあかりでよく御覽になりました。それは奇妙な物でございました。さあ、一體何でございませうね。

一ぱいの小人なんです。丁度お侍さまのやうないでたちでございしますが、脊丈がたつた一寸位の小人でございます。それがお嬢さまのお枕をすつかり取り巻いて踊つてをりました。小人は旦那さまが旗日にお召しになるのと同じものを着てをりました。肩の角張つた長い上衣、つまり袴でございします。髪はちよんまげに結つてをりました。そしてぎの小人も小さな大小を差してをりました。皆踊りながらお嬢さまを眺めてひやかし笑ひをしました。そして同じ歌を皆で繰返し繰返して歌ひました。

ちんくこばかま、夜も更け候――

お静まれ 姫君!!

やアトントン

言葉は大層丁寧に思はれましたけれど、お嬢さまに向つて意地悪いおぎけをしてゐるこごがすぐお判りになりました。お嬢さまに向つてアカンベをしたり致しました。

お嬢さ

まはご

れかを

捕まへようよ

してごらん

になりました。

が大變速く跳び廻

りますので捕へるこまがお出来になりません。そこで追つ拂

つてしまはうございまして。けれさもいつかな出て行かう

ございました。ちつとも歌ひ止めませんでした。

「ちん／＼こばかま……こま。

又笑ひ止めもしませんでした。それで、これはあの小さな精

だまお氣づきになりました、大層怖ろしくなつて聲を立てる

こまもお出来になりませんでした。小人は朝までお嬢さまの



まはりで踊りました。

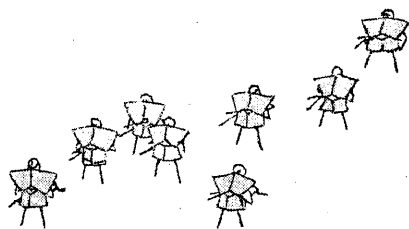
——朝になりますごふ。消えてしまひました。

お嬢さまはこの出来事を誰にお話するのも恥づかしうございました。何故つてお嬢さまは「お侍の妻」でございますもの。みんなにだつてあんなにびく／＼していらした事が知れるのは厭でございます。

次の晩又小人共はやつて来ては踊りました。又その次の晩も参りました。毎晩毎晩——。いつも同じ時刻に。その時刻を昔の日本人は「丑の刻」に呼んで居りました。それは私共の時計では大體夜中の二時でございます。さう／＼お嬢さまは寝不足を恐ろしさから重いご病氣になりました。それでも小人は来止めませんでした。

旦那さまはお歸りになります。病氣でおやすみになつていらつしやるので大層ご心配になられました。初めの中お嬢さまは何でご病氣になられたかをお話なさるのをこはがつていらつしやいました。きつと旦那さまが「馬鹿な」にお笑ひになるだらうと思ひになつて。けれども旦那さまは大變ご親切でしたし、やさしくおすかしましたので間もなく毎晩の出来事をお話しになりました。

旦那さまはちつともお笑ひになりませんで、一寸の間大變眞面目なお顔付をしていらつしやいました。がやがてお尋ねになりました。



「何時頃それは出て来るのですか」

お嬢さまはお答へになりました。

「いつも同じ時刻にまゐります。——丑の刻に」

「よろしい——今夜私がかくれてゐて見張つてゐませう。怖がることはありません」。こおつしやいました。

そこでその晩お侍さまはお寢間の押入の中に身をかくしていらつしやいました。そしてふすまの隙間から見張つていらつしやいました。

丑の刻まで見張りをしてお待ちになりました。するに突然小人が疊の間から出てきました。そして踊り歌を始めました——。

「ちんくこばかま 夜も更け候。

.....

それが餘り奇妙な姿をしてゐて、あんまりおぎけた恰好に踊りますのでお侍さまはもう噴き出しさうでございました。けれども若い奥方はぶる／＼震へていらつしやいますし、日本の幽霊や悪鬼は大抵皆刀を怖がるものだこいふ事をお思ひ出しになりましたので、刀を抜き放つて押入から飛び出し踊つてゐる小人をめがけて打ちこまれました。

三、忽ち皆變つてしまひました——

何に變つたかお思ひになりますか。

妻楊子ですよ。もう小さな侍共は居りませんで、たゞ疊の上に古楊子が澤山澤山散らばつてゐました。

若い奥方はお愈けさんで、ご自分の妻楊子をちやんまお始末なさいませんでした。毎日新しい楊子を使つては面倒で始末をなさらないで疊の間に突きさしてお置きになりました。それで疊を守る小さな精共が怒り出しました。

そして奥方をいぢめたのでございます。

旦那さまは奥方をお吐りになりました。奥方は大層恥づかしくお思ひになつてさうしてよいかお分りになりませんでした。一人の召使ひが呼び出されて楊子は取りのけられ焼かれてしまひました。その後は小人共はもう二度と戻つてきませんでした。

*

*

*

*

忘れ者のお嬢さまのお話がまだございます。そのお嬢さまは梅ぼしを食べてその後でたねを疊の間にかくしてしまふ癖がございました。長い間見附けられずにさうしていらつしやいました。けれどもさうく疊の精が怒りました。そしてお嬢さまに罰をあたへました。

毎晩小さなく女子共が——皆長い——お袖の真紅な着物を着て——同じ時刻に疊から起き上りました。そして踊つたり顔をしかめたりしてお嬢さまを眠らせませんでした。

お母さまが毎晩見張りに坐つていらつしやいました。さうしてそれをごらんになつてお打ちになりました。——するにそれは皆梅のたねに變つたのでございます。そこでそのお嬢さまのお行儀の悪い事がばれてしまひました。其の後はお嬢さまは本當に善い善いお嬢さまにおなりになりました。